**個別支援計画とケース記録　第2回「個別支援計画の作成とケース記録」01160802wtj**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ページ＃ | シートタイトル | 小見出し | 要点　「」はテロップ |
| P1下 | ■記録　何のために書くのか |  | 「ケース記録は何のために書くのか？」→「サービスの証明と検証のため」 |
| ・利用者を理解し、その内容を支援に活用する　計画の見直し | 「記録は日々のアセスメント」。私たちが行っている支援が有効なのか有効でないのか、利用者にとって意味のあるのか、そうではないのかを、「利用者の行動を通して知る」。 |
| ・契約の履行　債務者と債権者　 | 「個別支援計画は約束事」。契約を果たすためには、ケースの記録が大事になる。 |
| ・事故等の原因分析、改善計画のための検証　支援の正当性を示す | 「検証のための記録というものは非常に重要」な意味を持つ。 |
| ・記述者の意識化によるサービス向上の日常的サイクル | 「支援の向上を果たすために記録を書くという意識」を持つ。 |
| P2上 | 個別支援計画と記録の位置づけは？ | 3．その為には  | 「誰にもわかりやすい言葉で、必要なことを簡潔に書く」。 |
| 4．計画書とケース記録 | 「計画書とケース記録が一致している」。個別支援計画書の目標・課題を私たちは日々支援の中で追い求めるが、ここの部分の記述が抜けていると、個別支援計画とケース記録が全く意味をなさなくなってしまう。 |
| P2下 | 長期・短期目標にいたるストーリー | ・５W１H・誰が見ても支援方法が理解できる | 「どこで、誰が、何を、何のために、どのように、どうやって行うか」、を意識して、誰にでもわかる内容で書くことが大事。 |
| ・長期目標と短期目標が関連 | 「長期目標と短期目標を分けて書く」。 |
| ・計画は短期目標に向かう働きかけであり段階的に短期目標にいたる | 「短期目標の積み重ねが長期目標に至り、そのことが利用者の夢の実現につながっていく」。「長期と短期目標、そして短期目標に至る日々の記録が非常に大事になってくる」。 |
| P3上 | ■どのように書くか | ・利用者の状況（様子）と支援者の行動（取り組み）をセットで書く | 問題は、その状況に合わせて支援者がどのように取り組んだか、ということが書かれていない。「利用者の状況、様子に併せ、支援者の行動、取り組みをセットで書く」習慣をつける。 |
| ・個別支援計画やアセスメント、モニタリングを意識する | これらはPDCAで説明したが、一体的に、記述、計画、行動、アセスメントでつながっていく。常に一体で考えることが大事。 |
| ・行動の前後に着目する | 利用者の状況を書くときには、「その時に起こったエピソードだけではなく、その前後についても意識」するといい記録になる。 |
| ・サービスの向上を意識する | 書き手が支援をしているという主体性を持つこと。利用者のできる、できないではなく、「どのように支援するのか、どのようにしたら支援がうまくいくのか、どのようにしたら利用者の役に立つのか」、この意識をもって書いていくと、記録の内容も意図的にいいものに変わっていくはず。それがサービス向上の改善サイクルにつながる。 |
| ・マイナス面だけに目をむけず、プラス面にしっかり目を向ける | 「マイナス面だけに目をむけず、プラス面にしっかり目を向ける」。どうしてもできないことに目が行くが、できることに目を向けていくことが大切。 |
| P3下 | 大切なのはアセスメント | Objective | 例えば、『利用者が楽しんでいる』という記述は、実は客観的ではない。どのように楽しんでいるのかを具体的な事実として書く。「大きな声をあげて笑っていた」「楽しい楽しいと言って、手を振って全身で体を震わせていた」といった書き方が有効になる。 |
| P4上 | SOAP(ソープ) | ・24時間巡回中… | 「主観的情報については、利用者の情報を直接、具体的に書く」。 |
| ・股間を右手で… | 支援者の観察。事実をできるだけわかりやすく書く。『股間を右手で押さえるしぐさをしきりとする』が次のサインの発見につながっていく。だいたいここまで（S主観的情報とO支援者の観察）で記録を終わってしまいがち。 |
| ・トイレで…・夕食に… | ・（P）対応した後に、『夕食に下剤を・・と思われる』という『推定』を入れている（A）。『今週3回あった』と記述している。これが利用者の支援の向上や改善につながる。 |
| ・下剤の… | 「単に「失禁しました、対応しました」というだけではあまり意味がない」。SOAPではアセスメントが命となる。利用者支援を向上させるために、こうした方がいいのではないかと思う提案も書いていただくとよいと思う。その時には、「事実と自分の意見をきっちり分けて書く」ことも大事。 |
| P4下 | 課題解決に焦点をあてる |  | 問題の原因を探るよりも課題の解決を意識して書く。 |
| P5下 | ＜支援計画＞ |  | ゴールを小さく定めて、それに向かって支援者が意図的に支援している。その意図的な支援の結果、記述が発生している。何を書いたらいいのかわからないという場合には、私たちが課題設定をしていない、あるいは課題設定を細分化して、スモールゴール・スモールステップで目標に近づけようとする視点を持っていないことが往々にある。 |
|  | 記録を書くためには、「小さい変化でいいので課題を設定し、支援を意図的に行っていく」ことが大事。その支援の結果、どうなったか、どうしていけばよいかを記録に書くと、記録自体が非常に楽しいものになっていく。スモールゴール、スモールステップを意識する。 |
| P6上 |  |  | 支援計画書の全体の流れと記録の流れ一月ごとに課題を設定していく。課題①～④とあるがその都度スモールゴール、スモールステップを決めている。その課題に対して支援を行い、支援の効果・評価を行い、次の支援や課題につなげていく。スモールゴール、スモールステップを積み上げ、最終的に個別支援計画のうち、『本人の自己選択の幅を拡げる』につながってくる。 |
| P6上 |
|  |  |  | 「小さな目標を積み上げていくこと」このことを過去から現在、未来へつなげていくことが、本人の能力を大きく伸ばしていくことになり、「本人の自己選択や自己決定、夢の実現につながっていく」。これを最初から自己決定という大きな枠の中で、曖昧に計画や記録を考えても決してうまくいかない。 |